

# ～地域住民が主体となった 持続可能な公共交通づくり～

## 特徴・ポイント

- ・行政、運行事業者、地域住民のコラボレーション
- ・運営側のコンパクト経営の努力と、地域企業の協力
- ・生活バスを存続させたいという地域住民の強い思い

## 事業概要

路線バス廃止により公共交通の空白地域となった状況を解消すべく、新たな生活バスの運営を行う。バス運行は三重交通に委託。運営資金はバス路線沿線の企業からの協賛金、運賃、市の補助金で賄う。また、季節ごとのイベントとして日帰りバスツアーを企画し、新たな利用者の発掘にも努めている。

## 「家族にも気兼ねなく移動できる手段が欲しい」という切実な声

平成12年の規制緩和によってバスの赤字路線が簡単に廃止できるようになった。自分達の羽津いかるが地区は最寄り駅まで2キロ。自治会でアンケートを取ったところ、高齢者を中心にバスに乗りたいという声が多かった。若い人は車を持っているが気軽に頼めない。「家族にも気兼ねなく移動できる手段が欲しい」という高齢者の切実な声だった。当時、自治会の副会長をしていた西脇さんは、「地域としての取組をしないといけない。自分がやろう」と決意した。

## 行政、バス運行会社、地域住民。機能する人が集まり協働した



バス乗降介助風景

平成14年5月31日でバス路線が廃止される。市にかけあったが財政難で難しいという。乗客も少なく、運賃収入もあまり期待できない。そこで自分たちでなんとかして、地域の企業に協賛金を募り、それを財源としてバスを走らせようと考えた。

活動を始めると、全国的にも珍しく、これからのモデルケースになるのではと名古屋大学の教授たちも活動に参加してくれた。また、社会貢献に熱心なスーパーが別の地域で走らせているお買い物バスを羽津いかるが地区で走らせてもいいと言ってきてくれた。そのスーパーが社会貢献の一環として一定金額を拠出し、足りない分を

沿線の企業から提供してもらい、必要な経費を捻出してはどうかという構想になった。

次に路線の検討に移る。ニーズはあるのに乗客が少なく赤字路線だったのは、バス路線が利用しにくいものだったからだと西脇さんたちは考えた。高齢者だから特に急がないだろう。個人的に参加している市の職員、運行事業者の営業係長と一緒に、郵便局や医院等、地域をくまなく結んだ路線を検討した。「試験運行して、こういうバス路線であればお客さんが乗ってくれるという実績を作ろう」ということになった。当時、50万円の協賛金が

集まっていた。この50万円を使い、運行事業者の協力も得ながら、平成14年の11月から新路線での無料試験運行が始まった。「我々の成功は、ポジションポジションで動ける人がいて、行政や運行事業者との協働がうまくいったから」と西脇さんは言う。

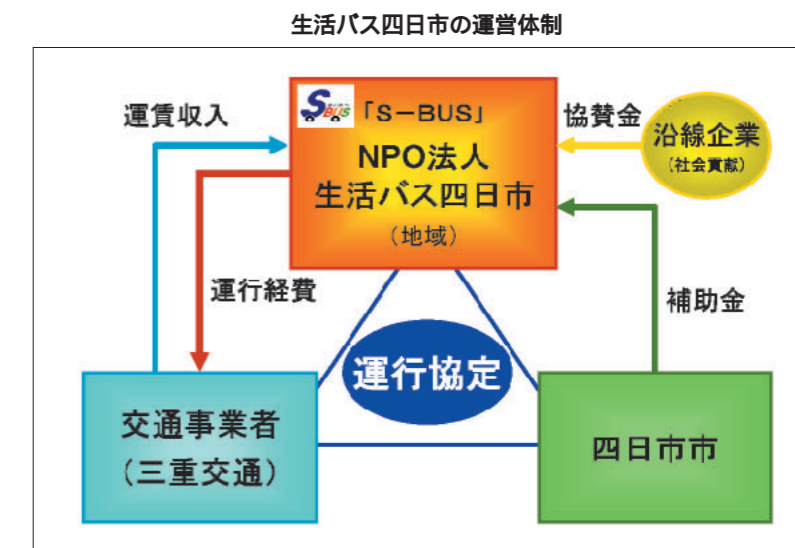
一番大変だったのは協賛金を集めることだった。沿線の企業を頻りに訪問し、社会貢献のためにとお願いした。しかし、試算では月120万円の経費が必要だった。運賃を高額にしたら乗ってくれない。金儲けのための事業ではなく、介護予防という考えの下に、家に閉じこもっている高齢者を外に出してコミュニケーションを図ってほしい。地域としても必要だし、試験運行で乗客がいることも確認したが120万円の工面が課題として残る。改めて行政に移動手段としての必要性を訴えた。同時期、手弁当で活動に参加してくれていた市の職員の方が行政の中で働きかけて、来年度からの予算を検討してくれていた。

## NPO法人格を取り、有料で運行開始

地域住民に参画意識を持ってもらうためには無料ではいけないと西脇さんたちは考えていた。「自分たちの足を自分たちで守る」ためにも、有料で運行したい。そのためには国土交通省の運行許可と、必要経費の足りない部分への行政からの補助が必要である。これらを申請するために、NPO法人格を取得し運行許可と必要経費を確保し、平成15年4月1日から有料で運行を開始した。

料金は1回100円。1ヶ月1,000円。6ヶ月5,000円。1年1万円。生活バス四日市の場合は定期券や回数券ではなく、「応援券」を販売する。継続的に応援券を買っていただいている方にも毎月20日頃に来月も買ってくれるよう電話している。また前出のスーパーはバスに乗って買い物に来た人にポイントを発行し景品と交換するシステムを作り、顧客の維持・増加に協力してくれている。

西脇さんたちの「コンパクト経営」の努力と、協賛金を拠出する沿線の企業の方々の社会貢献意識、地域貢献意欲の高いスーパーの存在、行政の補助、いろいろな関係者の協力により、生活バス四日市は今日も走る。



団体名：特定非営利活動法人 生活バス四日市  
 理事長 西脇 良孝  
 住 所：三重県四日市市  
 HPアドレス：http://www.rosenzu.com/sbus/